

平成21年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名 金井 隆雄 所属校種 高等学校

研修先企業・部署名 NTT東日本群馬支店(NTT東日本一群馬 法人営業部業務推進担当)

1 研修内容（主なもの）

- (1) 群馬支店研修担当（4月2日、3日）
 - a 講義（会社概要など）
 - b 施設見学（とう道など）
- (2) 業務推進担当第1 バックヤード(総括業務)部門（4月6日～7月31日）
 - a 来客者受付・連絡対応、電話対応、郵便・宅配便の受付等総括業務
 - b I S O（品質、情報セキュリティ、環境）勉強会
 - c 光回線敷設箇所の事前現場調査同行及び結果報告票作成補助
- (3) 業務推進担当第3 契約審査部門（8月～9月）
 - a 契約関係書類の確認・整理並びに契約管理簿作成補助
 - b S O法、工事契約に関する会計基準、下請法に関する研修
- (4) 業務推進担当第2 営業・販売支援部門（10月～3月）
 - a 法人営業部長外部講演会全般的対応
 - b N T T東日本各支店合同T Vミーティング参加及び要旨作成
 - c 各種商品説明会参加
 - d お客様ルータ故障対応同行
 - e 中之条町役場インターネット光体験コーナー設営同行
 - f N T T東日本施策料金シミュレーション表作成
 - g お客様への提案社内打ち合わせ参加
 - h お客様への提案同行
- (5) その他の研修
 - a 光ケーブルに関する技術研修（模擬設備の見学、融着接続の実技）
 - b 社外講師による講演会
 - c N T Tグループショールーム「NOTE」、武蔵野研究開発センタ見学
 - d シニアネット群馬いきいき広場パソコン教室インストラクター

2 研修から学んだこと

- (1) 社会的責任

NTT東日本は、つなぐ使命を全うするために事業活動を展開するだけでなく、企業を取り巻く社会全体に対して、責任を果たしています。例えば、環境に配慮した行動や情報セキュリティの確保、法令遵守、社会貢献などです。これらの活動に関して、eラーニング（インターネットを利用した学習）等社内研修を全社員が受講し、社会的責任に対する意識向上を図っています。
- (2) 学校現場に還元できること

私が研修した職場では、環境保全や情報セキュリティ等に関して、P D C A（Plan[計画]、Do[実行]、Check[点検]、Action[処置]）を回し、継続的改善を図っています。その一環で行なわれているのが、ポスターの掲示やステッカー貼付による意識啓発です。

環境に配慮した行動や情報セキュリティの確保は学校現場においても必要なことであり、一人ひとりの認識を高めなければなりません。そのため私は、以下の3点について校内研修等で共通理解を図り、水平展開したいと思います。

 - ①『職員・生徒が守る環境10ヶ条』の作成・掲示
 - ②『学校で出来る情報セキュリティの心構え』の作成・掲示
 - ③環境に配慮した行動や、情報セキュリティ確保の呼びかけ

3 所感

(1) 法人営業部長外部講演会の全般的対応を通じて

a 妥協を許さない姿勢

私は研修先において2か月程、法人営業部長の外部講演会に関して、先方との打ち合わせや資料作成など、全般的な対応をチームとして行ないました。部長の忙しさは誰からみても明らかでしたが、打ち合わせのたびに新しいデータの収集や資料の修正を指示するなど、講演会準備に妥協はありませんでした。NTT東日本グループ群馬のスローガンとして“**全ての力を「お客様満足」のために**”そして“**「光」により地域社会に貢献**”が掲げられています。このスローガンどおり、お客様である聴衆のために力を注ぐ部長の姿が大変印象的でした。

b 資料と心の準備

部長の講演会での話し方は、大変堂々としていました。それでいて、聴衆の反応を伺いながら、わかりやすく噛み砕いた説明をしていました。また、聴衆への質問を取り入れるなど、独りよがりではない講演となっていました。部長からは何回か講演を行なった経験があると聞いていましたが、いわゆる慣れだけでは上手くいかないと思います。事前の資料準備と心構えがしっかりできているからこそその講演です。部長の話聞いて懸命にメモを取る聴衆の姿が今でも目に焼き付いています。

c 授業と講演会

授業も講演会と同じプレゼンテーションです。先日、勤務校に伺ったときに、校長先生から「教材勉強と教材研究は違う」という言葉をいただきました。教科書の内容をそのまま教えるだけではなく、背景や周辺知識等を含めた、深みのある授業を心掛ける必要があります。私は部長が講演会準備で見せてくれた妥協なき姿勢をもって、授業準備等においても努力を続けていきたいです。

(2) 企業において必要なこと

a コミュニケーション能力

1年間、企業で働いた経験から、コミュニケーション能力が必要だと感じました。企業では各種会議はもちろん、電話や電子メール、インターネットの掲示板など、意見交換や情報のやりとりが片・双方向、頻繁になされています。様々な媒体を通してコミュニケーションを取るためには、お互いに情報伝達能力を磨く必要があります。情報を正しく理解し、相手の立場に立って、わかり易く伝えられるよう配慮しなければなりません。

b 自分を省みて

私はコミュニケーション能力が生徒にとって必要だと思っても、それを意識した教育活動を行なっていたか疑問が残ります。私自身、研修期間中、社員の方に情報を伝達する機会が幾度となくありましたが、きちんと内容を伝えることができず、反省する場面が多々ありました。

そのため私は、生徒の発言が多く得られるような双方向の授業展開と、ディスカッションやグループ学習を取り入れることの必要性を改めて感じました。また、研修期間中、相手の状況に応じた意見の伝え方を工夫した経験から、部活動や委員会活動等を通じて、生徒に外部の方と接する機会を多く用意したいと考えました。

(3) おわりに

研修前、環境の変化に弱い私は、学校現場とは全く違う職場での研修に、不安を抱いていました。しかし、研修が始まってからは右も左もわからない私に対して、物腰柔らかく丁寧に仕事を教えてくださる社員の姿に、徐々に不安が消えていきました。お陰で研修が充実したものになり、様々なことを学ぶことができました。

学校に戻ってからも1年間の研修を無駄にしないよう還元をしっかりと行い、一日一日を大切に歩みを進めて行こうと思います。